

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100286		
法人名	特定非営利活動法人NPO社会福祉振興会		
事業所名	グループホームななかまど歌志内館 1号館		
所在地	北海道歌志内市市中村34番地1		
自己評価作成日	平成23年12月12日	評価結果市町村受理日	平成24年3月26日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177100286&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんに対するおもてなしの心を持って、サービス提供ができる施設を目指しています。平成23年度の品質目標は「安全・礼儀正しさ・表現・効率」の4つがあり、その中で重点項目を毎月1つ決めて取り組んでいます。ホーム内での生活以外にも、敬老会や新年会、運動会やお祭りなど地域行事への参加で楽しめる機会作りをしています。重度で寝たきりの入居者さんもありますが、手浴・足浴・タクティールケアなどの緩和ケアを取り入れていることや、居室を家族との写真や装飾で飾るなど居心地の良い空間づくりとなるよう工夫もしています。また、家族との交流も大事にしており、行事や企画など立案した場合などにも、参加を呼び掛け交流の機会が増えるようにしています。職員に関しては、スキルアップのために内外部の研修や勉強会に積極的に参加し、知識と技術向上に励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<サービスの質の向上に向けた取り組み>
 法人理念、ユニット毎の理念を達成するために具体的な目標を設定し、目標の進捗管理を毎月実施してケアサービスの質の向上に取り組んでいる。また、職員の力量(教育・訓練・技能及び経験)に基づく、段階に応じた内部・外部研修を充実させていると共に資格取得を奨励し、就業環境の整備に努めている。

<本人と共に過ごし、支えあう環境づくり>
 職員と一緒にあって、ジャガイモの皮むきや調理の下ごしらえをしたり、足浴や手浴をしながら話し合い一日をどのように過ごしたいのかなど本人希望や意向を把握している。また、馴染みの美容室や理髪店への訪問等地域の中で安心して暮らせるように支援している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、毎日復唱し、朝のミーティングを行っている。また、月間目標があり、常に目標に目指したサービスに努めている。	事業所独自の理念、ユニット毎の理念を掲げ、その達成の為に目標管理を実践し、朝礼時や会議で話し合い、職員間で共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や地域の清掃活動にも積極的に参加。また、入居者の以前の暮らしで行っていたなじみの商店や床屋への外出支援に努めている。	地域で行われる川清掃や町内会の清掃行事等に参加したり、馴染みの商店での買い物や道の駅への散歩などで地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人達との日常的な交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の清掃に参加をさせていただいたり、夏まつりの開催にあたり、地域の方々に協力していただき、地域貢献に生かしています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。入居者が安心して生活できるように、相談し合い意見交換を行っている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催し、緊急時の協力体制や事業所の取り組み状況など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な訪問や、訪問されることで利用者状況などについて連携できる様に努めている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や内部研修を通して勉強会を行っており正しく理解できるように心がけています。	身体拘束廃止について、内部・外部研修を通じて管理者及び職員は共有し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修を通して勉強会を行っており正しく理解できるように心がけ虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修を通して勉強会を行っており正しく理解できるように心がけ、いつでも入居者及びその家族に対し説明できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には必ず、契約内容を本人及びその家族に対し説明し、納得を図っている。また、本人が納得して入所できるように支援している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などで意見を聞くことや、運営推進会議などに本人及びその家族が自由に参加し、意見が言えるように配慮している。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱の設置や市町村等の相談窓口の啓発ポスター等も掲示し、意見等は運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やNPO総会にて、職員が自由に意見を述べる機会を設け、反映できるようにしている。個人面談を行い、職員一人一人に要望を聞き、意見を反映させている。	毎月の会議や日常業務を通じて職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、職員の働きやすい環境を整え運営に反映できるように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の月間目標を決めOJTを実施し、努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように、環境、条件の整備がされている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や資格、能力に応じて外部研修やタクティカルケアの資格取得など、トレーニングを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャリアアップ研修の実践を通して同業者との交流、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式や課題分析のアセスメントをしながら、困っていることや、どんなふうに生活したいのかを把握し、入居者の訴えや願い、要望を最大限支援できるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の皆様にも、不安に思っていることや感じていること、要望等聞き入れケアを行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及びその家族に対し必要な支援を最優先に行い、そのほかの支援が必要になってきている面も含め対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの生活の場の中心は入居者ご本人なので、生活していく中で、掃除や調理等の生活支援または趣味活動をスムーズに行えるよう職員はサポートしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後もご家族の支援が必要だという事を説明し、受診や行事の際はご本人とできるだけ一緒に過ごしてもらおうよう支援している。又、月に一度の手紙で写真の送付や面談などを通じ共に支え合う関係の維持に努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所へ外出したり、なじみのある人を施設へ招いたりし、お茶会など関係が途切れないように支援している。	馴染みの美容室の訪問支援や近隣への散歩、町内会の清掃等の行事参加を通じて馴染みの人や場所の関係が継続できるように取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の生活や、病気の進行具合に配慮し、お互い支え合える場面を選択し、交流や助け合う場面をサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族との連携を行い、その後の様子や相談や困りごとなど聴けるようフォローに努める。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望の把握に努め、実践できるようチームで検討し支援につなげている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを中心に、現在に至るまでの暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしは、介護記録に記載することで現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を反映し、モニタリングやケアプランの評価、アセスメントや課題分析を行い、現状に即したケアプランを作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式を利用して本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、介護記録に記載して職員間で情報共有するとともに、ケア会議やミーティングなどで介護計画の見直しとなるように活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院や歯科受診、買い物などの外出時付き添いや送迎など、本人や家族の状況を考慮し、柔軟な対応ができるように取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所や地域包括支援センター、警察署や消防署、町内会など地域資源との協働を行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し、医療との連携を行い、受診や往診などが適切に受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	サービス担当者会議や日々のミーティングの中で情報が共有できるように話し合い、適切な受診や、看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も常に協力病院や医療機関と連携を図り情報交換をしている。また、早期退院を受け入れる体制を整えている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対しての説明をご本人やご家族に対し段階的に行い、協力病院や担当医とも話す場を設け、チームとして取り組んでいる。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、救命救急講習を職員は受けているため、応急処置などの技術は身につけている。又、急変や事故の場合にはマニュアルがあるので、迅速に対応することができる。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1か月に1度、自主訓練を行い消防に報告している。	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施し、スプリンクラーや通報装置等の設備の定期点検も行われている。また、毎月自主避難訓練を実施している。	今後は、火災・水害・地震等の具体的な災害時に備え避難経路の確保や衣服の濡れ等シミュレーションを重ねているので、有効に実践されるよう期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの基本として、入居者の誇りや尊厳を傷つけるような言葉かけや誘導又は介助をしない。特に排泄や清潔援助における声掛けはさりげなく行っている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように会議や日常業務を通じて話し合い、職員間に周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表出することが少ないため、さりげない会話の中で感情や希望を読み取り、ご本人に沿った援助をすることに努めている。自己決定できるような対応をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは、入居者が一日をどう過ごしたいのかにより、時間を区切った過ごし方はしていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの美容室へ行ってもらい、外出支援が困難な人は訪問美容室をお願いし、好みの髪型に整えることでおしゃれを楽しまれている。毎朝その日に着る服を選んでる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好を把握、本日のメニューの記入、食材の調理、後片付けなど本人に合わせて一緒にしている。	職員と利用者が、毎日の調理や食事の準備、後片付け等一緒に楽しんで行っている。また、嗜好調査を実施し、日々のメニュー作りに活かしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を把握し、状態に合わせた調理や摂取ができるように支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時・毎食後にはうがいやブラッシングなど、本人の状態に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン表を作成しての把握や、定期的な声掛けや誘導等、自立した排泄が出来るように支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように自立への支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品の提供、適度な運動など行えるよう、担当者や看護師に相談し便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングに合わせて入浴できるように個々に沿った支援をしている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人が希望すれば曜日や時間など個々に沿った支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じてゆっくりと休めるように、布団乾燥機の使用やホットミルクの提供。足浴やホットパックを使用することで安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを活用し、変更時などの把握ができるようにしている。また用法や用量についての理解と支援を行い、症状の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、役割や楽しみごと、気晴らしを検討し実施している。その人らしさを発揮できるように、主役となれるよう場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の習慣や、楽しみごと、誕生日などに合わせて支援を行っている。その日の本人の想いを受け取り、外出支援に結び付けている。	一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物等戸外に出かけられるように支援している。また、誕生日の外出や町内会の行事参加等の支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望やに応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信支援などは本人の希望があれば随時行い、いつでも家族や知人と連絡ができるようにしています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然な生活環境における刺激に対して、常に考慮し、過度な刺激とならないよう調整している。	リビングや廊下の壁には、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾りつけが行われ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人がゆったりと過ごしたり、気の合う人同士で過ごしたりできるような居場所の工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にあった使い慣れたものや、好むものなどを活用することや、新たに必要なものなどがあれば用意するなど、居心地良く居室で過ごせるような工夫をしている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や仏壇、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人に無理や負担とならず、自立した生活が継続できるよう安全な環境作りに配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100286		
法人名	特定非営利活動法人NPO社会福祉振興会		
事業所名	グループホームななかまど歌志内館 2号館		
所在地	北海道歌志内市市中村34番地1		
自己評価作成日	平成23年11月21日	評価結果市町村受理日	平成24年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんに対するおもてなしの心を持って、サービス提供ができる施設を目指しています。平成23年度の品質目標は「安全・礼儀正しさ・表現・効率」の4つがあり、その中で重点項目を毎月1つ決めて取り組んでいます。ホーム内での生活以外にも、敬老会や新年会、運動会やお祭りなど地域行事への参加で楽しめる機会作りをしています。重度で寝たきりの入居者さんもありますが、手浴・足浴・タクティールケアなどの緩和ケアを取り入れていることや、居室を家族との写真や装飾で飾るなど居心地の良い空間づくりとなるよう工夫もしています。また、家族との交流も大事にしており、行事や企画など立案した場合などにも、参加を呼び掛け交流の機会が増えるようにしています。職員に関しては、スキルアップのために内外部の研修や勉強会に積極的に参加し、知識と技術向上に励んでいます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0177100286&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年3月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念や運営方針を復唱し、朝のミーティングを行っている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている川清掃や町内会行事に積極的に参加。また、事業所で行っている行事企画も地域・町内会で参加を促がし交流できるように努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人たちと一緒に認知症についての勉強会を開催している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回、開催し日ごろに生活状況について活動報告を行い、地域活動に繋がることも踏まえ助言をもらっている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な訪問や、訪問されることで利用者状況などについて連携できる様に努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会や勉強会に参加し学んだことを日々のケアに取り入れ身体拘束のないケアの実践に努めている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、社内・社外研修に参加し、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内・社外研修に積極的に参加し、制度について学び、理解を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族様や利用者様と十分に時間を設け、理解と納得が出来るよう努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見や意見箱を設置し、気軽に訴えられるよう機会を設け運営に反映している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや月末に行われるケア会議にて、職員一人ひとりの意見や提案を聞き、運営に反映できるよう努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を導入し、同じ評価が受けられるようにシステムを改善している。また、処遇改善交付金により、就業規則の向上に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が社内外の研修に参加できるようシフトや日程を調整し、学んできたことを日々のケアに取り入れている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークでの交流や社外研修などで同業者と交流できる場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センサー方式や課題分析のアセスメントを活用し、本人の困っていることやどんなふうに住生活を送っていきたいのか把握する。また、入居者様の訴えを最大限支援できるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様にも何か困っていることや不安に感じていることなどを聞き要望などケアに取り入れている。また、3ヶ月に1回面談を聞きいれている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に対し、必要な支援を最優先に行っている。また、その都度必要になってきている支援についても取り入れている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの生活の中心は、入居者さんなので調理参加や裁縫、編み物など行っており、出来ない場面でのサポートをするように努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様に支援や支えが必要であることを理解していただく、受診や施設行事には積極的に参加を促し、本人と一緒に参加できる環境を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前生活していた時に利用していた理容室やお店などに行くことで関係性が途切れないよう努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの認知症の症状などを配慮しながら、お互いが必要とし関わり支え合う場面を設け、職員が間に入りサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族との連絡を取り合い、その後の様子や困っている事等を聴けるようフォローに努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン以外にも、日々の関わりの中での希望や意向の把握に努め、本人本位に検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族を中心に聞き取りを行い、施設に入居するまでの生活の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方をモニタリングや介護記録に記載することで現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、かかりつけ医師などの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアに実践など介護記録に記載し職員間で共有するとともに、ケア会議を開き情報の共有や介護記録の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医や病院受診、買い物などの外出時の付き添いや送迎など、本人や家族の状況を配慮し、柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所や地域包括センター、警察署や消防署、町内会など地域資源と協力し行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医等と連携をとり、受診や往診など適切に受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	サービス担当者会議や日々のケアの中で、看護師と情報を共有し受診や往診を受けれるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報等を協力病院と連携をとり、情報を交換している。また、早期に退院できるように施設側での対応も整えている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対し、本人・家族に段階的に説明を行うことや、担当医や協力病院と話し合うばを設けチームで取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に職員は、応急処置や救命講習を受けており技術を身につけている。また、急変時や事故の場合マニュアルがあるので対応することが出来る。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1ヶ月に1回は、自主的に避難訓練等を実践するとともに、地域住民や消防署の方に参加していただき、意見等をもらっている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導や入浴時などは、さりげなく声かけを行い、相手の自尊心を傷つけないよう配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日をどのように過ごしたいか等を聞いたり、会話の中で本人の思いや希望を読み取り、支援できるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の暮らし方については、入居者に合わせているので時間を区切った生活は送っていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室や理髪店に出掛けてオシャレを行ったり、外出が出来ない方には訪問美容室を呼び好みの髪型が選べるように支援している。また、その日の体調等に合わせ衣服など自己決定できるよう支援が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好品をメニューに取り入れられたり、食器の配膳や食材の味見など一緒に行っている。また、個人に合わせて食後の片付けも行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、本人様の状態に合わせた食事や水分の摂取方法に応じた支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時に、うがいや歯磨きなど本人の状態に合った口腔ケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、定期的な声かけや排泄誘導等を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を提供し、無理のかからない適度な運動を行い、担当医や看護師に相談し便秘予防に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合った入浴ができるように、個々に沿った支援をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んでいただけるよう、照明や布団乾燥機を使用し温めたり、室温・湿度を調整して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを活用し、薬の目的や用法について理解を努めている。また、服薬変更後の用法や用量について変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活用し、役割、嗜好品、楽しみ事など、一人ひとりの力を発揮し、その日の主役になれるよう気分転換等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や行事・誕生日等、日常的に行けないような場所へ外出できるよう職員間で話し合っている。また、その日の本人の希望や思いを把握し外出できるよう取り組んでいる。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じ、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、通信支援は行っており、いつでも家族や友人・知人と連絡が取れるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招くような刺激には十分に配慮し、季節の花や装飾品を飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の性格や相性などを把握し、気の合った入居者様同士が過ごせる居場所の工夫をしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前生活していた馴染みのものや好みの物を活用し、本人が居心地良く居室で過ごしていただけるような工夫をしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの取り付けや本人の負担にならず、自立した生活が送れるように居間や共用空間の安全に配慮し環境作りを行っている。		

目標達成計画

事業所名: グループホームななかまど歌志内館

作成日: 平成 24年 3月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時等の避難誘導後の対応。	具体的災害(火災・水災・地震)を想定した罹災後の対応強化。	罹災後のより具体的なシミュレーションを実施する。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。